

# 成長過程のクリスチャンのための10の鍵

## 7. 感謝—正しいことをする

クリスチャンにとって、毎日が感謝の日であるべきだ。問題の真ただ中にいる時でさえ、感謝するべきだ。使徒パウロは“どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています”と言った。(2コリント7:4)彼は、試練を通しての時でさえ、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを知っていた。(ローマ8:28)

問題はあなたのところからやって来るだろう。神は直接、あなたがクリスチャンとして成長するようにする。みことばの土にあなたの根が深く根ざすために、神はあらしを許す。私たちは問題の中でもっと祈るが、よく言われることは、つま先で立っているよりもひざをかがめた方がよく見えるということだ。

かつて、ある男性がまゆの中から出ようともがいているチヨウを見ていた。彼は一生懸命助けようとして、かみそりの刃を取り出し、まゆの端を慎重に切り開いた。チヨウは問題から抜け出した。そしてすぐに死んだ。

チヨウにもかくようにさせたのは神の方法だった。小さな心臓を早く打つようにさせ、いのちの血液を羽にまで届けるためのもがきである。

試練には目的がある。それによって、私たちは葛藤し、へりくだる。試練は、私たちがよく入っていると感じる、まゆである。神への信仰といういのちの血液が、私たちの羽を広げるのを助ける。

信仰と感謝は親友である。もし神を信じているなら、たとえライオンのねぐらの中にいるとしても、神の恵みの御手が置かれていることを知っているゆえに感謝する。それによって、深い喜びを得ることができる。喜びは、神への信仰の深さを計るバロメーターである。例をあげてみよう…

想像してほしい。今日の新聞の最後のページを破って、私に送ってくれたら、あなたに100万ドルあげようと言ったとする。もちろん、私がそうするとは信じないだろう。しかし、そうしたとしよう。1000人以上の人々がその

ページを送り、それぞれが100万ドルを無条件で受け取る。さらに、あなたは私に電話をかけ、私は直接、確かに約束通りにすると言う。もしあなたが私を信じるなら、喜ばずにはいられないでしょう？信じないなら…喜びはない。

あなたの喜びの度合いが、私の約束をどれだけ信じているかのバロメーターとなる。

感謝すべきことはたくさんある。神は、“金よりも望まれている” “すばらしく偉大で貴重な約束” を与えてくださっている。それらの約束を信じ、約束のゆえに神に感謝し続け、“喜びでいっぱいになったそう”。

昔、ある年老いた農夫は、自分の家に神を信じていない親戚を招いた。食事の前に、農夫が頭を下げて、食事を神に感謝すると、親戚の人は不作法にこう言った。“何のためにそんなことをするんだ？神なんていやしい。今は啓発された時代なんだから。” 年老いた農夫は微笑みながら答えた。“食前

に神に感謝しない者が、一人だけ農場にいますよ。” 親戚の人は立ち上がって、言った。“その、啓発された人はいったい誰なんだ？” 農夫は静かに答えた。“うちの豚ですよ。”

